



CentreCOM® AR260S V2 リリースノート

この度は、CentreCOM AR260S V2 をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（613-001298 Rev.A）、リファレンスマニュアル（613-000685 Rev.F）および設定例集（613-000902 Rev.G）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 3.3.3

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 3.3.2 から 3.3.3 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 「ダイナミック DNS 設定」で「登録するインターフェース」に指定したインターフェースの IP アドレスを、ダイナミック DNS サーバー宛てのパケットに含めていませんでしたが、これを修正しました。
- 2.2 VPN 環境で複数の IPsec トンネルを確立する設定で動作している場合、IPsec SA が確立した際に、IPsec SA が確立していない同一の IPsec ポリシーに対して同時に多数の SA を作成しようと動作していましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 3.3.3 には、以下の制限事項があります。

3.1 PPPoE インターフェース複数使用時の IPsec 経路変更

 **【リファレンスマニュアル】 /
【3 WAN 側インターフェースの設定】 /
【3.3 PPPoE を使用した WAN 側ネットワークへの接続】**

PPPoE インターフェースを複数設定し、仮想トンネルインターフェースを使用する IPsec 環境において、IPsec 対向機器に対する経路（ルーティングテーブル）を変更する場合は、一度「切断」ボタンを押して PPPoE インターフェースを切断してから行ってください。

3.2 PPPoE 使用時の固定アドレス設定

 **【リファレンスマニュアル】 /
【3 WAN 側インターフェースの設定】 /
【3.6 「WAN」 ページの解説】**

PPPoE セッションが接続された状態で「WAN 設定」で固定アドレスを設定する「IP アドレス（オプション）」の値を設定すると、「IP アドレス（オプション）」に入力したアドレスとは異なるアドレスが設定されます。「IP アドレス（オプション）」を変更する場合には、PPPoE が切断された状態で変更する必要があります。

3.3 MSS クランプ値の手动設定時のMSS 値

 [「リファレンスマニュアル」](#) /
[「3 WAN 側インターフェースの設定」](#) /
[「3.6 「WAN」 ページの解説」](#)

WAN 側インターフェースの設定において MSS クランプ値を手動設定にした場合、MTU 値が 1454Byte 以外の時に MSS 値が正しく設定されないことがあります。そのため、自動設定を使用するか、正しい MSS 値になるように MSS クランプ値を調整してください。

3.4 DNS リレー関連のログメッセージ

 [「リファレンスマニュアル」](#) /
[「3 WAN 側インターフェースの設定」](#) /
[「3.3 PPPoE を使用した WAN 側ネットワークへの接続」](#)

DNS リレーの問い合わせ先を自身の WAN 側インターフェースの IP アドレスに設定している場合に、LAN 配下のコンピューターから本製品の LAN 側インターフェースの IP アドレス宛てに DNS クエリパケットを受信した際、本製品に次のようなログメッセージが記録されます。

```
Aug 03 14:26:31 PMON [007]: [named] terminated unexpectedly. Restarting
Aug 03 14:26:31 PMON [008]: [named] restarted
Aug 03 14:28:07 PMON [007]: [named] terminated unexpectedly. Restarting
Aug 03 14:28:07 PMON [003]: Abandoned [named]
```

これを回避するには、DNS リレーの問い合わせ先を、本製品の WAN 側インターフェースの IP アドレス以外に設定してください。

3.5 ポートフォワーディング設定時の対象プロトコルの表示

 [「リファレンスマニュアル」](#) /
[「5 ファイアウォール /NAT の設定」](#) /
[「5.5 NAT の設定」](#)

「NAT 設定」で「NAT タイプ」を「ポートフォワーディング」に設定し、「対象プロトコル」を「ESP」とした場合、いったん設定は反映されるものの、設定変更時に設定画面を開くと、「対象プロトコル」が「ESP」と表示されません。これは表示だけの問題で動作には影響ありません。

3.6 デフォルトルートの出力インターフェース

 [「リファレンスマニュアル」](#) /
[「6 VPN の設定」](#) /
[「6.2 VPN の設定」](#)

トンネルインターフェースを利用した IPsec 構成において、デフォルトルートの出力インターフェースをトンネルインターフェースにしている場合、WAN 設定の内容を変更すると、デフォルトルートの出力インターフェースが、PPPoE インターフェースに変更されてしまいます。「ルーティング」設定にてデフォルトルートの出力インターフェースを再設定してください。

4 取扱説明書・リファレンスマニュアルの補足

取扱説明書（613-001298 Rev.A）、リファレンスマニュアル（613-000685 Rev.F）および設定例集（613-000902 Rev.G）の補足事項です。

4.1 Internet Explorer 9 に関する補足



「取扱説明書」/
P14 「5 かんたん接続」 / 「設定」
P32 「8 トラブルシューティング」
P34 「A 付録」 / 「A.2 JavaScript の有効化」

取扱説明書の Internet Explorer についての説明に、Internet Explorer 9 に関して以下のとおり補足します。

- 14 ページ「設定」の手順 3 に関する注釈 *1 を下記のように変更します。

変更前：*1 本製品の設定は、Windows 版の Internet Explorer Ver.8、Ver.7 または Ver.6 をご使用ください。

変更後：*1 本製品の設定は、Windows 版の Internet Explorer 9、8、7 または 6 をご使用ください。
- 32 ページ「8 トラブルシューティング」の「設定画面がうまく表示されません」の最初の説明文を下記のように変更します。

変更前：Web ブラウザーとして Internet Explorer Ver.8、Ver.7 または Ver.6 を使用してください。

変更後：Web ブラウザーとして Internet Explorer 9、8、7 または 6 を使用してください。
- 34 ページ「A.2 JavaScript の有効化」の最初の説明文を下記のように変更します。

変更前：Internet Explorer に以下の設定を施すと、本製品にアクセスするときのみ JavaScript を有効にすることができます（他のセキュリティー設定に影響を与えません）。Internet Explorer Ver.7 の例を示しますが、Ver.8、Ver.6 でも同様です。

変更後：Internet Explorer に以下の設定を施すと、本製品にアクセスするときのみ JavaScript を有効にすることができます（他のセキュリティー設定に影響を与えません）。Internet Explorer 7 の例を示しますが、9、8、6 でも同様です。

4.2 PPPoE 接続時の DNS オプションの自動取得



「リファレンスマニュアル」/
「3 WAN 側インターフェースの設定」/
「3.3 PPPoE を使用した WAN 側ネットワークへの接続」

「WAN 設定」の接続モード「PPPoE」において、DNS オプションを固定設定にした場合、自動取得に設定し直しても DNS 情報が削除されません。これを回避するには、かんたん接続により PPPoE の設定を再度行うか、設定を初期化した後に再設定を行う必要があります。

4.3 PPPoE ユーザー名 / パスワード：使用可能文字種



【リファレンスマニュアル】 /
【3 WAN 側インターフェースの設定】 /
【3.3 PPPoE を使用した WAN 側ネットワークへの接続】

ファームウェアバージョン 3.3.2 から PPPoE 接続におけるユーザー名およびパスワードに使用できる文字種が変更され、前バージョンまで使用できなかった下記の記号が使えるようになりました。

\$ ' * / ; < > ` |

4.4 NAT 経由でのリモートデスクトップ接続



【リファレンスマニュアル】 /
【5 ファイアウォール / NAT の設定】

リモートデスクトップ接続を行っている際に、リモートデスクトップの操作を長時間行っていない場合、通信が切断される場合があります。これを回避するには、リモートデスクトップ接続を行う端末同士で、Window Scale Option を使用しないようにする必要があります。

5 取扱説明書とリファレンスマニュアルについて

最新の取扱説明書（613-001298 Rev.A）、リファレンスマニュアル（613-000685 Rev.F）および設定例集（613-000902 Rev.G）は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記の取扱説明書、リファレンスマニュアルおよび設定例集に対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、リファレンスマニュアル、設定例集が上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>